

## 0.1 H16 数学選択

[A] (1)  $x^4 - 14x^2 + 9 = 0$  とする.  $x^2 = y$  とおけば  $y^2 - 14y + 9 = 0$  より  $y = 7 \pm 2\sqrt{10}$  となる. よって  $x = \pm\sqrt{7 \pm 2\sqrt{10}}$  が根である.

$\sqrt{7+2\sqrt{10}}\sqrt{7-2\sqrt{10}} = 3$  より  $\mathbb{Q}(\sqrt{7+2\sqrt{10}})/\mathbb{Q}$  は 4 次 Galois 拡大である.

$\sigma \in \text{Gal}(\mathbb{Q}(\sqrt{7+2\sqrt{10}})/\mathbb{Q})$  は  $\mathbb{Z}/2\mathbb{Z} \times \mathbb{Z}/2\mathbb{Z}, \mathbb{Z}/4\mathbb{Z}$  のいずれかである.

$\sigma(\sqrt{7+2\sqrt{10}}) = \sqrt{7-2\sqrt{10}}$  とする.  $\sigma^2(\sqrt{7+2\sqrt{10}}) = \sigma(\sqrt{7-2\sqrt{10}}) = \sigma(3/\sqrt{7+2\sqrt{10}}) = 3/\sqrt{7-2\sqrt{10}} = \sqrt{7+2\sqrt{10}}$  より  $\sigma^2 = \text{id}$  である.

$\sigma(\sqrt{7+2\sqrt{10}}) = -\sqrt{7+2\sqrt{10}}$  とする. これも  $\sigma^2 = \text{id}$  である.

位数が 2 の元を 2 つ以上もつから  $\text{Gal}(\mathbb{Q}(\sqrt{7+2\sqrt{10}})/\mathbb{Q}) \cong \mathbb{Z}/2\mathbb{Z} \times \mathbb{Z}/2\mathbb{Z}$  である.

(2)  $x^4 - 20x^2 + 98 = 0$  とする.  $x^2 = y$  とおけば  $y^2 - 20y + 98 = 0$  より  $y = 10 \pm \sqrt{2}$  となる. よって  $x = \pm\sqrt{10 \pm \sqrt{2}}$  が根である.

$\sqrt{10+\sqrt{2}}\sqrt{10-\sqrt{2}} = 7\sqrt{2}$  であり  $(\sqrt{10+\sqrt{2}})^2 = 10 + \sqrt{2} \in \mathbb{Q}(\sqrt{10+\sqrt{2}})$  であるから  $\mathbb{Q}(\sqrt{10+\sqrt{2}})/\mathbb{Q}$  は 4 次 Galois 拡大である.

$\sigma \in \text{Gal}(\mathbb{Q}(\sqrt{10+\sqrt{2}})/\mathbb{Q})$  として  $\sigma(\sqrt{10+\sqrt{2}}) = \sqrt{10-\sqrt{2}}$  とする.  $10 + \sigma(\sqrt{2}) = \sigma((\sqrt{10+\sqrt{2}})^2) = (\sqrt{10-\sqrt{2}})^2 = 10 - \sqrt{2}$  より  $\sigma(\sqrt{2}) = -\sqrt{2}$  である.  $\sigma^2(\sqrt{10+\sqrt{2}}) = \sigma(\sqrt{10-\sqrt{2}}) = \sigma(7\sqrt{2}/\sqrt{10+\sqrt{2}}) = -7\sqrt{2}/\sqrt{10-\sqrt{2}} = -\sqrt{10+\sqrt{2}}$  より  $\sigma^2 \neq \text{id}$  である.

位数が 2 でない元が属すから  $\text{Gal}(\mathbb{Q}(\sqrt{10+\sqrt{2}})/\mathbb{Q}) \cong \mathbb{Z}/4\mathbb{Z}$  である.

[B] (1)  $k$  上 1 次元ベクトル空間は  $k$  と同型である. よって  $\rho: \mathbb{Z}/3\mathbb{Z} \rightarrow GL(k)$  としてよい.

$f \in GL(k)$  の元は  $a \in k$  に対して  $f(a) = f(a \cdot 1_k) = af(1_k)$  であるから  $f(1_k)$  で定まる.  $i \in \mathbb{Z}/3\mathbb{Z}$  に対して  $\rho(i)(1_k) = \alpha \in k$  とする.  $\rho(i+i+i) = \rho(0) = \text{id}$  より  $\rho^3(1_k) = \alpha^3 = 1_k$  である.  $k$  の標数は 3 であるから  $x^3 - 1_k = (x - 1_k)^3$  より  $\alpha = 1_k$  である. よって  $\rho(i) = \text{id}$  である. すなわち  $\rho(G) = \{\text{id}\}$  である.

(2) 略

(3)  $V = W_1 \oplus W_2$  が存在するとする.  $\rho(1+3\mathbb{Z})$  の  $V$  上の最小多項式は  $W_1, W_2$  上の最小多項式の最小公倍数である.  $\rho(1+3\mathbb{Z})v = \lambda v$  ( $\lambda \in k$ ) とすると,  $v = \rho(0+3\mathbb{Z})v = \rho(1+3\mathbb{Z})^3v = \lambda^3v$  より  $1_k = \lambda^3$  である. よって  $\lambda = 1_k$  である. 最小多項式は固有値以外を根に持たないから  $W_1$  上の最小多項式は  $(t - 1_k)$  の因数,  $W_2$  上の最小多項式は  $(t - 1_k)^2$  の因数である. すなわち  $V$  上の最小多項式は  $W_2$  上の最小多項式と一致して 2 次以下である.

$V$  の基底  $\{v_1, v_2, v_3\}$  による  $\rho(1+3\mathbb{Z})$  の表現行列は  $A = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \end{pmatrix}$  であり  $(A - E_3)^2 \neq 0$  であるから最小多項式は 3 次である. これは矛盾.

(4)  $W_1 = \langle v_1 + v_2 + v_3 \rangle, W_2 = \langle -v_2 + v_3, v_1 - v_3 \rangle$  とする.  $\begin{vmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 1 & -1 & 0 \\ 1 & 1 & -1 \end{vmatrix} = 3 \neq 0$  より  $V = W_1 \oplus W_2$  である.

$\rho(1+3\mathbb{Z})(v_1 + v_2 + v_3) = v_1 + v_2 + v_3$  より  $\rho(G)W_1 \subset W_1$  である.  $\rho(1+3\mathbb{Z})(-v_2 + v_3) = v_1 - v_3 \in W_2, \rho(1+3\mathbb{Z})(v_1 - v_3) = -v_1 + v_2 = -(-v_2 + v_3) - (v_1 - v_3) \in W_2$  より  $\rho(G)W_2 \subset W_2$  である.